

1 児童の実態とその分析

平成25年度全国学力・学習状況調査およびCDTⅢ検査における児童の学力の実態

①国語科における学力

言語事項に関する知識・技能の力は総じて定着してきているものの以下の課題がある。

条件や目的に応じ、根拠を明らかにして具体的に「書く」能力に弱さが見られる。他教科での課題でもあるが、自分の考えを分かりやすく適切な表現で書いて伝えることが苦手な子が多い。また、描写のよさを捉えながら、内容を理解する「読解力」に弱さが見られる。特に説明文において文の構成に即して読み取ることが苦手である。

②算数科における学力

計算方法の理解や計算技能には成果が見られるが、四捨五入などの処理に正確さを欠く。また、文章問題等の立式はできるが、条件に応じた適切な解答ができていないなど「思考・判断力」に弱さが見られる。また、単元によって「量と測定」領域では、単位量あたり大きさを求めるときの除法式と商の意味が混乱している。

以上からの結果から、基礎的・基本的な知識・技能は定着しつつあるが、知識・技能の活用ができないという実態にある。

2 児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の実態とその分析

朝学習として実施している「漢字や言葉」「計算」の反復練習によって一定の成果が上がっている。

「授業が分かる」と感じる児童は多くあるが、学習意欲が高まっていない。解き方が難しいと諦める児童が多く、「学習したことを生活の中で活用する」と答えた児童は全国・県と比較すると低い。

また、スマートフォンの利用やゲームに費やす時間が長く、家庭学習の時間も少ない傾向にある。朝食を毎日摂っていない児童もある。

基礎的・基本的な知識に関する学習時間を確保するとともに、各教科の単元・観点ごとの結果から課題を明らかにし、授業改善を図る。

また、生活習慣の改善を含めた家庭との連携の施策をもって、学習意欲向上の取組を行う。

3 指導改善の具体的な取組

〈改善の方向〉

本校は、平成26・27年度の2カ年に渡り「学力向上徹底プラン-小学校からの教科専門性向上システム-」の開発事業の指定を受け研究実践に取り組む。今年度は、児童の実態から捉えた課題を解消するために、研究主題を「**できた、わかった**」という**充実感を味わい、学び続ける児童の育成**と設定した。

また、願う児童の姿を以下のように求め、学力向上を図る研究を推進する。

- ①学習した知識・技能をもとに自ら課題を見つけ、粘り強く解決に向けて学び続ける子
- ②互いの意見を交流し合い、仲間と学び合う中で思考力・判断力・表現力を高める子

〈指導方法の工夫・改善〉

(1) 指導方法と内容

- ①学習集団づくりと学び方指導を確立する。
 - ・伝え合う力を高めるための「聞き方・話し方」の指導と学びあい学習の充実を図る。
 - ・小中9年間を見通した学び方指導の系統化を図る。
- ②指導改善のサイクルを確実に生かす。(PDCAサイクルの徹底)
- ③個の能力に応じたきめ細かな指導を充実させる。
 - ・中学年から習熟度別少人数指導を実施し、つまづきやすい学習内容を確実に定着させる。
 - ・効果的・計画的な補充的学習(朝タイムの学習、意図的な朝読書、休み時間等を利用した補習)を行う。
- ④小学校から「教科専門性向上(専門の指導力を向上させる)による教科の授業を充実させる。
 - ・小学校からの教科担任制を実施する。(小中の円滑な接続を意図する)
 - ・中学校籍教員の兼務による専門的指導を実施する。
 - ・学習活動を重視した授業を実現する。(体験的活動・問題解決的活動・見通し振り返り活動を位置づける。)
 - ・地域人材を活用して学力を向上させる。(地域連携の重視)

(2) 指導体制

- ①学習指導部提案の「授業の学び方」「家庭学習のあり方」等に関する共通理解を図り、徹底する。
- ②学年主任を中心に学習習慣の定着、学び方づくりの指導を行う。
- ③研究部会を中心に、授業づくりに関する研究を推進する。
- ④学校と保護者と効果的に連携・協力して生活習慣の改善し、学習習慣の定着、家庭学習時間の確保を図る。
- ⑤小学校と中学校との連携・協力による授業改善や指導力を向上させるために研修を実施する。
 - ・小中合同の教員研修をもつ。(小中交流会による学び方・生き方・からだづくり)
 - ・合同授業研究を実施する。(教科研究会専門分野での連携、研究授業への参加による学び合い)
 - ・小学校籍教員、中学校籍教員の兼務による専門的指導を実施する。

4 成果検証と時期と方途

- 授業・学習評価
 - ①4月全国学力・学習状況調査
 - ②全校研究等における授業研究と成果
 - ③学年末評価テストの結果評価
 - ④岐阜県 学習状況調査
 - ⑤全学年「CDT-Ⅲ」テスト
- 学校・生活評価
 - ①3学期学校評議委員による指導
 - ②7月・1月保護者アンケートの結果
 - ③6月・11月児童への教育相談週間での学習に関する助言
 - ④年度末「学校評価」